

農水省跡地利用施設建設基本計画市民説明会 要録

- 日 時 平成17年7月13日（水） 午後7時～9時
- 場 所 武蔵野スイング・レインボーサロン
- 出席者 古田土助役・永並助役・檜山企画政策室長・南條教育部長・秋山企画調整課新公共施設開設準備担当課長・笹井市民活動センター所長・冥賀施設課長・清水児童青少年課長・樋口まちづくり推進課鉄道連続立体交差担当副参事・山家武蔵境開発事務所長・渡辺緑化環境センター所長・落合教育企画課長・平岡生涯学習スポーツ課長・三木図書館長・川原田 k w h g アーキテクト代表・比嘉 k w h g アーキテクト代表

1. 開会

【笹井市民活動センター所長（司会）】これより、農水省跡地利用施設建設基本計画市民説明会を開会いたします。はじめに、主催者を代表いたしまして、農水省跡地利用施設建設基本計画策定委員会の委員長でありました、武蔵野市助役古田土よりご挨拶申し上げます。

【古田土助役】武蔵野市助役の古田土でございます。農水省跡地利用施設建設基本計画市民説明会にお越しいただきありがとうございます。武蔵野市では、武蔵境駅南口にあります農林水産省食糧倉庫跡地を取得し、新たな公共施設の建設を長年検討してまいりました。この土地は、多くの市民の皆様から民間の開発にさらされないように、市で取得して欲しいと要望がありました。また、平成9年には、市議会に土地の取得や利用計画を検討するために、農水省跡地利用計画検討特別委員会が設置され、平成10年に土地取得に至った、という経過がございます。翌年には土地の北側半分を都市計画公園として、都市計画決定をしました。平成13年には、西尾勝先生を委員長とします新公共施設基本計画策定委員会を設置し、平成15年に建設の基本構想ともいべき報告をいただきました。これを受け施設の設計者を選ぶプロポーザルを実施しました。そして、昨年より農水省跡地利用施設建設基本計画策定委員会を設置いたしました。この策定委員会には、学識経験者のほか、設計プロポーザルにより選ばれた川原田さんに委員として参画いただきました。策定委員会では、施設の規模、配置構成、管理運営方針について議論を重ね、最終報告書として建設基本計画が出されましたので、本日皆様にご報告させていただきたく、お集まりいただきました。よろしく申し上げます。

【笹井】建設基本計画につきまして、担当課長の秋山よりご説明をいたします。

【秋山新公共施設開設準備担当課長】新公共施設開設準備担当課長の秋山です。それでは、農水省跡地利用施設建設基本計画策定委員会最終報告書に沿って進めてまいりますので、よろしく申し上げます。

まず、この跡地の現状などを説明します。報告書31ページをお願いします。この土地は、国に取得を働きかけ、民間ではなく、市で買い取り活用してほしいという市民の要望もあり、また市議会でも市民の方からご意見を伺い利用計画を立て、平成10年に国から土地を取得したという経過になります。現在、南側半分が暫定的な駐輪場となっていますが、こちらに施設を建てていきます。北側半分は、平成11年に、公園として都市計画決定しているので、施設完成後も、公園として永久に使用していきます。また、市の長期計画において、この跡地に建てる新公共施設建設事業は、JRの連続交差立体事業、南北の町の一体化の整備とともに、境のまちづくりの一環として位置づけられています。

続きまして、報告書の4ページをお願いします。建設基本計画は、前策定委員会の新公共施設基本計画策定委員会報告書において示されました施設の基本的な考え方をもとにまとめてきました。「自然との調和を図る」という点は、北側の公園や緑との調和をとっていくということです。「場所を活かす」は、駅前という利便性を活かして施設をつくるということです。「複数の機能が集まる利点を活かす」は、図書館機能、市民活動支援機能など、様々な機能を連携させ、お互いのメリットが出るような施設にしていくということです。

続きまして、5ページをお願いします。コンセプトについてご説明します。本施設のコンセプトは、「集う、学ぶ、創る、育む～知的創造拠点」です。このコンセプトをもとに、体系図（コンセプトと場の体系図）のとおり、4つの施設機能を設けていきます。1つ目が図書館機能を持つ施設、2つ目が会議・研究・発表のための施設、3つ目が創作・練習・鑑賞のための施設、4つ目が交流のための施設となります。

8ページをお願いします。活動が行われる場所という意味を持つプレイスという言葉がこの施設のキーワードとし、施設の名称を仮称ですが、武蔵野プレイスと設定しました。

続きまして、12ページをお願いします。施設機能のおもな特徴をご説明します。まず「新しい知の施設」です。施設の役割として、新しい出会いや発見に満ちた場、創造の場を提供していきます。また、自ら情報発信をし、人と人をつなぐ交流の場という位置づけをし、それらを新しい知の施設と考えています。次に「館全体に図書館機能を」と提唱しています。図書や資料をメインの図書館部分に配置するだけでなく、各階で行われる市民活動など様々な活動に合わせて、図書や資料を各階に配置していきます。また、図書は閲覧スペース以

外にも施設内の読みたい場所に持って行って読むことができます。特徴の3番目として「ブラウジング」という機能をあげています。ブラウジングには、ぶらぶら見て歩くという意味がありますが、この施設は図書や資料を各階に配置し、また各階で様々な活動が行われていますので、いろいろ歩いて見ていただくという、施設の利用の形態を展開したいと考えています。

次に16ページをお願いします。先ほど説明した4つの施設機能を具体的に説明します。図書館機能として、地下1階がメインライブラリーになります。蔵書は吉祥寺図書館と同程度の充実を図ります。閲覧スペースも、ゆっくり読書や研究ができるよう、十分なスペースを設けます。2階がサブライブラリーです。マガジンラウンジでは新聞、雑誌を質・量ともに充実させます。情報ブラウジングコーナーではインターネットで情報検索ができます。次に会議・研究・発表のための施設としては、フォーラムができるような会議室、また、ルームと名づけ、グループ学習や、調査、研究ができるような小さな会議室を設けます。そのほか、スタディコーナーを設けます。創作・練習・鑑賞のための施設は、スタジオと名づけています。ダンスや演劇の練習や美術活動ができる多目的スタジオと、バンド練習ができる音楽スタジオを設けます。交流のための施設は、市民プラザと名づけています。ここには、市民活動の場として市民オフィスを設け、市民活動団体や生涯学習団体の打ち合わせスペース、また、印刷ができる設備を備えます。そのほか交流のための施設としてカフェ、気軽に体を動かせるプレイスペースを設置します。17ページの施設機能体系図は、これらの機能がただ単に縦割りという形ではなく、図書館の機能を中心とし、それぞれが連携し合って、施設を形づくっていくことを表しています。

24ページをお願いします。この施設の対象者は、子どもから高齢の方まで、市民のあらゆる年齢層の方を想定しています。その中で、特に今まで公共施設を利用する機会が少なかった青少年、あるいは社会人の方が繰り返し利用できるような仕組みを考えています。青少年のためには、音楽スタジオ、多目的スタジオ、スタディコーナーなどがありますが、これ以外にも図書館も利用していただきたいし、この施設で行われる様々な活動にも入っていただきたいと考えています。また、利用上の優遇措置等を検討します。

26ページをお願いします。すべての人が利用できる使いやすい施設づくりを掲げ、ユニバーサルデザインに配慮し、高齢者、障害がある方、あるいは外国人の方でも使いやすい施設にしていきたいと考えています。

続きまして、34ページをお願いします。施設の規模を考える上で重要視したのが、利用上のフレキシビリティ（融通性）とゆとりある空間をとること、そして北側の公園との一体化、緑に囲まれた景観の確保です。規模は、地上4階、地下3階となり、4階をセットバックさせることで、公園側でもうまく日照が

得られる工夫をします。新しくできるJR駅舎の高さが約19メートル、西側の高木の高さが約20メートルですので、これらとのバランスを考え、建物の高さを約18メートル、4階に抑え、また、地下を活用したという経過がございます。

続きまして47ページをお願いします。公園の基本コンセプトは、建物と一体化した交流スペースとしての公園となります。駅前広場と駅舎と寺院を緑でつなぎ、市民の憩いの場となるよう考えています。そのほかに、緑化、イベントが出来る交流スペースを考えており、また、現在境南ふれあい広場にある市民花壇も、新しい公園においても市民の協力をいただきつくっていきたいと考えています。

続きまして52ページをお願いします。この施設の運営として、縦割りではなく、横の連携がとれ、市民の皆様が使いやすいような一体的な管理運営を考えています。また、利用時間の拡大など市民のニーズに応え、効果的効率的な運営を行うために、指定管理者制度を活用していきます。指定管理者としては、民間ではなく、市の教育施策に対する理解、事業の継続性、教育委員会との連携等を考え、現在総合体育館の管理運営を行っている武蔵野スポーツ振興事業団を改組し、専門性の高い人材を新たに確保するなどして、指定管理者として委任する形を考えています。他の図書館の管理運営も、効果的効率的な運営や、連携等を考えると同様の指定管理者が望ましいと考えています。また、現在生涯学習スポーツ課で行っている生涯学習事業、及び市民会館で行っている生涯学習関連の事業に関しても、この指定管理者にお願いして事業を行っていきたいと考えています。

続きまして56ページをお願いします。開館日数、開館時間については、指定管理者に委任するということもあり、夜遅くまでの開館、日数についても年末年始の休みのほか、月1回、あるいは2回程度の休み以外は開館したいと考えています。

57ページをお願いします。総事業費は粗々な数字になりますが建設費が54億円、その他の設備や公園整備費を合わせ総計61億円と現状では試算しております。今後、削れる部分は削っていくよう考えています。

最後に59ページをお願いします。現在基本設計に入っておりますが、建設工事は18年10月より開始し、完了が20年6月、施設の開館は20年度中というのが現段階での建設スケジュールです。

【笹井】続きまして、設計コンセプトにつきまして、川原田さんよりご説明をお願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

【川原田（設計者）】設計を担当している川原田です。我々は、設計プロポーザルに参加し、そこで評価をいただき、今回の事業に携わることになりました。昨年より1年かけて建設の基本計画を検討してきました。策定委員会において、

この建物の機能構成、どんな活動がどの階にどのくらいあれば良いかというようなことをまとめてきました。本日は、この施設を利用させていただき皆様、施設をご理解いただき、疑問点等を出していただいで、今後の設計等に反映させていきたいと考えています。設計者の立場から説明をいたしますので、よろしく申し上げます。

まず、敷地の立地条件と環境という点を説明いたします。この土地は武蔵境駅前のロータリー、駅舎、寺院の間にあり、駅を降りると空が広がって見えるような恵まれた環境に位置しております。周囲には6階建て、7階建ての建物が建っているなかで、ここだけはポッカリと空いたスペースとして残っています。こういう場所が武蔵境にあるのは非常に貴重であり、仕事が終わって帰って来た時に、ホッとするような場所として設計をしていけたら良いとプロポーザルの時から提案してきました。また、西側の高木もこの敷地の大きな特徴だと思っています。この土地には、6階建て、7階建ての建物を建てることができますが、今ご説明したような敷地の条件、あるいは西側の高木を生かして整備していくことを考えると、6階建て、7階建てという高層ではなく、西側の高木の高さを越えず、また武蔵境の新駅舎の高さを越えない建物に抑えていこうということで方向性を決めました。その結果、地下部分をフルに利用し、地下3階、地上は4階建ての計画となっています。また、西側の並木と公園の木々などを連続させることによって、建物と公園とを一体のものとして捉え、駅前のオープンスペースをつくっていく方向で、全体の考え方をまとめました。

次に、施設のあり方について説明します。前策定委員会において、この施設は知的創造拠点という方向性が示されました。IT、マルチメディアの発展で、知や情報に対するアクセスが変化している状況の中で、知的欲求の高い武蔵野市にふさわしい新しいタイプの知の施設が必要である、と知的創造拠点という言葉を理解しました。施設の名称は仮称ですが、武蔵野プレイスとして進めています。従来の知の施設の代表は図書館であり、大半の情報が本という紙媒体だったので、これをストックして貸し出す機能は持っていました。現在は、多くの知的情報を自宅にしながらパソコンで検索することができるので、これからの知の施設は、情報をストックするだけでは事足りず、知的な出会い、発見に満ちた場、創造の場になるようなものが必要だと位置づけています。従来の知の施設が、人と情報を結ぶものであったのに対し、今回の施設は情報や資料を介して、人と人とを結ぶ施設、コミュニケーションの施設と言っても過言ではありません。最近地域のコミュニケーションが大変希薄になっていまして、地域活動に参加されているのはいつも常連の方だけという事態が見受けられますが、地域に声をかけて、活動の広がりを試みるのも非常に難しいと思います。そこで、武蔵野プレイスは、知的好奇心をもって集まってきた人と人との間に

起こるコミュニケーションを誘発していける場所にしていきたいと考えています。ネットワークが発展し、人と人がお互いに会うことなくコミュニケーションできる時代だからこそ、あえて人と人がリアルに出会える場所が必要であり、武蔵野プレイスがそのように機能することを期待しています。従来情報発信をする側と受け手側は分離していましたが、近年この境界が薄れ、誰でも情報の発信者となって活躍できる可能性が広がってきています。この施設は、市民が書籍やインターネットの情報を幅広く活用して、情報をつくり発信していくことを支援する施設となることも求められていると考えています。

17ページの施設機能体系図は、図書館機能であるライブラリー、会議・研究・発表の機能となるフォーラム、創作・練習・鑑賞機能であるスタジオ、交流機能を担う市民プラザという4つの施設機能を示していますが、これらがお互いに分離するのではなく、有機的につながり、連携利用されるような施設を目指しています。そうでないと、これらの施設を一つの場所に建てる意味がないと考えています。それぞれの活動に必要な場所は既存ビルの空き室などに求めれば、収容できるかもしれませんが、交流とコミュニケーションの場として機能するためには、様々な活動の場が分離しては役割は果たせません。例えば、バンドの練習にやって来た若者が、市民活動をしている大人の活動を見ることや、あるいは、図書館に調べ物をしに来た人が、地域自由大学のレクチャーに興味を持つといったようなことは、それぞれの施設が分離しては、起こりえないことだと思っています。4つの機能が統合されていることが、この施設の大きな特徴と考えています。

次に4つの機能のうち、ライブラリー（図書館機能）について説明します。IT、電子メディアが発展する中においても、知的活動を行ううえで、引き続き印刷メディアは大きな役割を担ってくださるだろうと考え、紙媒体の図書館機能も充実させていこうというのが今回の図書館の基本になっています。ただ、これまでの貸し出し型の図書館ではなく、ゆったりと読書や調べ物ができる滞在型の図書館を目指しています。ある調査によりますと、週末にカフェでコーヒーを飲みながら読書をしている人の数が相当な数に及び、そういう心地の良い書齋的な場所を求めている人がたくさんいらっしゃるということです。最近の都市の生活者は、例えば、近所のカフェが自分の書齋であったり、一人暮らしの若者は、コンビニが自分の冷蔵庫だったりするような形で、生活の一部が、都市の中に拡張したような生活を送っていらっしゃいます。今回の施設も生活の延長の都市施設として、市民の書齋であったり、リビングであったりというような、都市施設としての役割を果たしていけたら良いと考えています。館内においては、本を自由に持ち歩けるよう考えており、従来のような静かな閲覧スペースに加え、気軽にコーヒーを飲みながら読書ができるなど、今までの図

書館に無かった多様な機能を提供していきたいと考えています。利用者の利便にも配慮し、一般的な図書館機能を集約した階を設定するほか、それ以外の階にはその階で行われる活動に関する専門図書コーナーを設けるなど、館全体に図書機能を配置し、先ほど申し上げました4つの施設機能が図書館機能によって有機的に結びつき、回遊を促すような仕掛けをしていきます。また、限られた蔵書数の中で、専門図書を充実させることによって、知的欲求に応えられるような蔵書構成を行いたいと考えています。

次に、会議・研究・発表のための施設のなかで、4階のフォーラムについて、説明します。フォーラムでは、武蔵野市には様々な分野で知的業績を持つ市民がたくさんいらっしゃるので、そういう方々に講演を行っていただき、市民が知を共有し、市民同士の交流を促していく場となっていくことを目指しています。また、地域自由大学の活動等にも利用していただけたらと考えています。

次に具体的に平面図を使って各階の構成をご説明いたします。資料の42ページからが平面図になります。図面は基本計画段階であるため、記載されているとおり建設される訳ではありませんが、だいたい、この階にこのくらいの大きさの活動スペースがあるというイメージを持っていただければ良いと思います。まず1階は、市民プラザということで、交流のスペースとなります。図面の右側に風除室とありますが、公園との連携や一体的な利用を考え、公園側に一つ出入り口を設けました。もう一方の出入り口を反対側に設け、公園を散策するような形で建物を抜け、境南町に流れていくような動線をつくっています。この階にはカフェがあります。また、図面には書いていませんが、カフェの前の公園部分に屋外のテラスを設けて、緑陰読書ができるカフェテラスとしていきたいと考えています。中央には、知のギャラリーというスペースがありまして、この建物の中心に本があることを示し、また、この館全体で行っているイベントに関連する本をここに展示したいと考えています。そのほか中央に図書の貸し出しカウンターと、この館全体をどのように使ったら良いかなど、相談を受ける情報コンシェルジュコーナーを設けています。

次に2階になります。2階はサブライブラリーで、専門図書、児童図書のフロアーとなっています。

3階は市民オフィスという名前がついています。ここには、スタディコーナーがあります。また、市民活動のフロアーとして利用していただくので、プリント工房という印刷関係のスペースと、活動に使っていただくロッカーやレターケースを用意します。そのほかにルーム40とかルーム50という会議室があり、数字は広さを表し、いろいろな大きさの会議室を考えています。

4階には、200人程度のレクチャーができるフォーラムというホールと雑誌コーナーであるマガジンラウンジがあります。また、公園と連続する北側のほう

は、屋上緑化を考えており、公園との緑のつながりを意識してデザインしています。

地下1階は、メインライブラリーです。図書館を訪れる人は非常に多いと思いますので、1階からのアクセスの良さ、また、直射日光が少ない地下であれば本の保存状態に良いという点から、地下1階をメインライブラリーとしました。

地下2階は、スタジオ階となります。バンド練習ができるスタジオ、あるいはダンス、アートとか多目的に使えるスタジオが周囲に配置されています。この階の中央部分あたりにも、音楽や芸術、パフォーマンスアートなどに関連する書籍、雑誌等を配置していきます。

地下3階は、駐車場と機械室になります。

以上のような施設をまとめるキーワードとしてプレイスという言葉を使いました。プレイスというのは、活動が行われる場ではありますが、原っぱのようなイメージと考えていただくとわかりやすいと思います。原っぱには、子どもたちが集まって来ますが、遊びが決まっている訳ではなく、毎日新しい遊びを開発しながら遊んでいます。これが原っぱのイメージで、禁止事項も特に無く、自由な場所が原っぱだとイメージしています。やって来た人が思い思いに自分の行動を選び、好きな場所を選べる、こういうものをプレイスと定義しています。

プレイスの特性として、「開放性」「多様性」「創発性」をあげています。「開放性」は、人々が集まりやすく心地よく過ごせる場所ということです。自然と連続していて、自然に対して開かれていて、自然と調和していける豊かな憩いの場で、全ての市民に開かれた交流の場所になって欲しいと考えています。「多様性」は、様々な知的活動の拠点として、いろいろな機能を持った場所ということです。「創発性」についてですが、ここには様々な機能があるので、知の共有がおこり、様々な活動が関係し合い、活動のきっかけや発見性、偶発性に満ちた出会いの場となっていくと考えています。これらを「創発性」という言葉でイメージしています。

I Tの飛躍的な発展で、社会的に多くの機能がデジタル化されてきているなかで、我々はコミュニティーから遊離した状態に置かれやすくなってきています。このような状況の中で、人々が集まって行動できる場となることこそがこれからの公共施設の役割であり、それにふさわしい環境ということで、プレイスという概念を提示しています。プレイスのイメージを実現するために、具体的な建築では、吹き抜け、あるいは避難階段以外の回遊動線を設け、各階がビルディングのように分断されるのではなく、全体が一つの場としてつながって使えるようにいたします。また、様々な人が自然な形で様々な活動に出会える

ような工夫をしていきます。

公園についてですが、50、51ページが簡単なスケッチです。駅前のロータリー、駅舎、寺院を連続する緑の環境でつなげていく中心が公園だと思います。ですから、ここを緑で覆い、緑のつながりを駅前につくり、パブリックスペースとしてまちづくりにつなげたいと考えています。公園は視覚的な緑としての役割だけではなく、そこで散水を行い、その打ち水効果により都市の熱環境を調整する装置としての機能も考えています。また、この公園は、イベントやフリーマーケットを行う交流の場としても位置づけています。武蔵野プレイスの交流のコンセプトとつながり、活動の連鎖が生まれるような公園になっていくと考えています。つまり、環境として建物と公園がつながってだけでなく、機能としても互換して利用できるように考えています。以上で説明を終わります。

2. 質疑応答

【笹井】 それでは、ご質問をお受けしたいと思います。ご質問のある方は挙手を願います。

【質問者A】 1点目は、建物の規模についてです。9,600㎡という記述が報告書の中に出てきます。このことについて、第5回の策定委員会の中で議論があった、と情報公開を通して得た資料に書かれていました。その中では、9,600㎡について十分な議論がなされていないことと、3、4階について削れる部分があるのではないかと委員の方が発言されて、議論の結果、9,600㎡をマックスとすると、まとめられていました。それが、最終報告では、9,600㎡の想定で考えている、という表現になっています。また、なるべく削る、というその時の合意がなくなってしまったのは何故か、お伺いします。また、なるべく減らすという議論が、策定委員会の中でどのようになされたのかお伺いしたいと思います。

2点目は、自然との調和についてです。先の策定委員会では、建物部分の議論の中で、「なるべく可能な限り緑をおく」という表現でしたが、今回は、「周辺部分」という表現となっています。緑に関して後退だと感じます。表現が後退したのは何故か、お伺いしたい。

3点目は、市民意見についてです。この策定委員会は非公開でした。計画段階において利用者である市民と意見交換をする場をつくっていただきたい。なぜ策定委員会では、市民との意見交換に対して消極的なのか。第6回の記録で、その点について発言をした委員がいらっしゃったが、それに対して、事務局側は「ご意見は何っておきます」と発言していたが、その後議論された形跡はありません。その点を伺いたい。

【笹井】 3点ありました。企画政策室長からお願いします。

【檜山企画政策室長】 規模については、策定委員会の中で様々な議論がありま

した。策定委員会では、9,600㎡をマックスとし、つまり9,600㎡はありうるとなり、4階で抑えるという考え方と必要な機能や将来的な需要を考えるとマックスまで必要だという最終的な策定委員会の結論になりました。

緑の計画は、後退した訳ではありません。緑を配置し、駅前広場の緑、公園の緑、並木、寺院の緑を一体化し、武蔵境の駅で降りた市民の方が緑の中の我が町に帰ってきた、と実感できるような環境にしたいというのが、策定委員会での結論です。

委員会の公開については、1回目の策定委員会で公開のあり方について検討しました。その議論の中で、公開は会議要録をもって公開とする、という結論に達しました。傍聴については、委員の自由な発言を保障するという観点から、ご遠慮いただくということになりました。

【笹井】よろしいのでしょうか。他にいかがでしょうか。

【質問者B】最終選考会において、川原田さんは7,800㎡とおっしゃって、行政でなければできないようなものを目指していきたいということと、小さくても豊かな物をつくりたいとして、地下3階地上1階のプランを出されました。先ほどのご説明によると、地上4階となったようですが、疑問が残ります。低層で小さくとも豊かな物をつくりたい、とおっしゃっていたのですから、建築家として、いきなり4階建てにしてしまっても良いのか、ということをよく考えていただきたいと思います。

また、事業費は61億円ですが、市民の有権者比でいえば、一人5、6万円であり、土地取得費も入れれば、12、13万円の負担です。年々、3,000円くらいの負担をしていくことを考えると、十分公開された形で内容をつめていくべきです。

【檜山】規模についてですが、基本的に土地は、北側の公園も含めると約5,000㎡あります。駅前の一等地であることを考えると、民間の開発であれば、敷地一杯に施設を建設すると思います。そういったことを避ける意味で、また市民のご要望もいただいて、昭和48年から取り組み、市議会においては特別委員会も設置していただいて公聴会を開催して、施設利用計画案の提言をいただきました。それをもとに農水省と交渉し、平成10年に取得に至ったという経緯がございます。そうした経緯により北側の駅に近い半分については、緑あふれる公園とし、残りは有効活用していくことになり、市民参加で策定された前策定委員会で提起された4つの施設機能を満たす施設を計画するのが、今回の策定委員会の使命でありました。そういったことから考えれば、地下3階まで落とし込み、将来的なニーズを考えるとギリギリのラインで9,600㎡の規模となりました。

事業費については、必要な経費だと考えています。経費を賄うにあたっては、

現在の市民の方だけでなく、将来活用していただく市民の方にも負担していただくために、起債による資金調達を考えています。

【笹井】建築家としてのご意見をお願いします。

【川原田】プロポーザルで選ばれたのは、建築に対する考え方が評価されたと考えております。どういう点が評価されたかという点、1つは、プレイスという原っぱのような場所をつくろうという建築のあり方についての評価と、もう1つは、低層でほっとするような場所をつくろうというようなところが評価されたと思っています。プロポーザルは、条件設定、規模の設定が全く提示されていなかったところで、案を作成しましたので、当然発注者側との意見交換が出てくると認識しています。具体的な要望が出てくる中で、我々としてはこの施設が、6、7階となつてはいけないと思い、時間をかけて議論しました。その中で、たとえば、10万冊ぐらいの蔵書では、知的創造拠点としては物足りないとか、滞在型の図書館が必要だろうという要望も出てくる中で、こういう施設の規模で抑えてきました。我々なりの低層化を出来るだけ良い形で実現していこうと考えています。

【笹井】次の方どうぞ。

【質問者C】この案は、極めて優れている。大賛成です。是非推進していただきたい。中央線の南側には文化施設がほとんど無い。境南町やその周辺に住む人々がみんな利用できます。是非、推進していただきたい。

【笹井】ご意見として承っておきます。次の方どうぞ。

【質問者D】VE（バリュー・エンジニアリング）について触れていますが、この取り扱いはどうなるのでしょうか。

【冥賀施設課長】基本設計に入っていますが、設計が終わった時点で設計に無駄が無かったかどうかということ、VEということで、新たな手法でそれを検討したいと考えています。

【笹井】次の方どうぞ。

【質問者E】市報には、計画がどのように推移し、いつ最終案が出てくるのか全く掲示されませんでした。ただ、策定委員会ができたという記載で費用については、見当が付きませんでした。先ほど起債で行うとおっしゃっていましたが、市の財政的な面からどのように推移していくのか、市民に知らせ、意見を問う必要があります。

また、価値観が多様化している時代において、複数案提示して、その中から市民に選んでもらうのが、民主主義の原則だと思います。その部分が欠けていると思います。

【檜山】市の財政力は、三多摩においても、トップに近いところにありますが、バブルが弾けて、各自治体が財政的に厳しい立場に置かれているのは、武蔵野

市も例外ではございません。そういう意味で、お預かりしている税金を有効に活用するのが我々の使命であり、そういった見地から検討しております。案が一つしかないということですが、前の策定委員会において様々検討していただき、その中でも、意見交換会を含め、様々な意見を聞いてとりまとめたいただきました。その中で4つの機能がありますので、それをいかに建築的にまとめていくかが、今回の策定委員会の役割でした。そして、策定委員会としてまとめたものを市として了承いたしました。行政としても、市議会の特別委員会にたびたび報告して、了解をいただきながら進めております。行政として責任を持った選択をして、皆さんにご説明をするという立場でおります。市債残高につきましては、15年度末で420億円、基金等も238億円ございますので、182億円が差し引きの借金になります。また、財政力指数も平成16年度、1.7で極めて高い水準でございます。策定委員会の結論としても、不要な経費は削減し、指定管理者制度の導入により、効率的かつ効果的な施設運営をすべきだとまとめております。

【笹井】次の方どうぞ。

【質問者F】8年前から、緑の中で皆が憩える素敵な場所にしたいと活動を続けてきました。形としては、手続きを踏んでやってきた、となっているかもしれませんが、説得力のある方向性を提示していないと思います。財政の話も出ましたが、川原田さんによると、他の施設に部屋が空いていても、この施設に統合することに意義があるという発言をされていましたが、そのようなことをする財政的な余裕があるのでしょうか。税金の使い方にはシビアになっていただきたいし、みんなが納得いく形で決着してもらいたいと思います。

【古田土】先ほどもご説明申し上げましたとおり、土地を取得するということを初めに言ったのは、昭和48年です。そして、議会に諮り、財政的には大変厳しいが、民間の開発に任せたいという市民の要望があり、取得が始まりました。それ以降、どういう建物を建てるか検討を始めたのが、平成9年です。この際に市議会に特別委員会を設け、継続的に議論をしております。反対される議員さんもおられますが、大部分が賛成ということで継続的に審議してまいりました。また、前策定委員会でも、市民の方を委員として、検討してまいりました。そういう積み重ねで我々の策定委員会もやってきました。そういう経過をご理解いただきたいと存じます。

【笹井】次の方どうぞ。

【質問者G】2点質問があります。この計画案は、市民の声を重視して決まったのか。

2点目、総工費の問題です。市の年間予算が約550億円で、420億円が起債残高ということだが、こういう環境で、資金調達、維持管理などについて具体的

に説明していただきたい。

【檜山】市民の声というのは、中間のまとめに対する市民意見についておっしゃっていると思いますが、それを含めて全体的な市民の意見ということでお答えします。前策定委員会でも、アイデアコンペ等でも市民の方のご意見をいただきました。また、市議会の特別委員会でもたびたびご意見をいただいております。そういった声がベースとなってこの計画が進んでいることをご理解いただきたいと思います。今回の計画に限って言えば、中間のまとめに対して市民の意見を39件いただきました。その中には、規模に関するご意見、あるいは緑に関するご意見、施設設計にあたっての具体的なご意見等幾つかいただきましたが、規模に関しては、土地の有効活用、将来的なニーズも含めて、ギリギリの線となるべく階数を減らした今の案にまとまりました。緑との関係で言えば、屋上緑化と同時に、4階をセットバックして、北側公園に対する負荷をなるべく少なくするなど、市民意見を尊重しながら進めてきました。

総工費は、仮置きの数値ですが、61億円という数値が出てきました。どういう形で資金調達するかというのはこれからの問題です。例えば、国庫の状況等があるので、この時点で国のどの補助制度を活用するかというのは、はっきりと具体的な数字は難しいですが、ただ、基金の部分が238億円ありますので、十分財政的にはやっていると考えています。

【笹井】時間が迫っておりますので、今、挙手された方々で終わりにしたいと思います。

【質問者H】設計者のコンセプトについて、「館内を歩き回ることによって、利用者の知的好奇心が自然に触発され、ここを訪れるだけで何らかの知的刺激が得られるような環境」という記述について、具体的に説明をお願いします。また、スタディや雑誌を読むようなコーナーはこのコンセプトに合っていないような気がします。会議室は、他の施設にもたくさんあるので、必要はないと思います。

【川原田】ブラウジングについてですが、普段は市民活動などをやっている方を若い方は意識していないと思います。たまたま、マガジンラウンジから降りてくる時、そういった活動を目にするだけでも、情報として入ってくることになり、自分もこういうことができるのではないかということに発展し、また若者がそういったことを知るだけでも、市民の知的活動へ参加するきっかけになるのでは、と思っています。

【檜山】会議室については、知的な市民活動をサポートしていくうえで、打合せコーナー等が必要になる上、この中で育まれた知的活動を発展させる場として必要となってきます。いろいろな形で、この会議室は使われると思っています。通常の図書館でも、会議室がありますが、図書館機能に加え、いろいろな

機能を備える施設なので、会議室がこれだけ必要だと策定委員会で判断しました。

【古田土】先ほど、ご質問いただいた起債残高について、正確にお答えしないといけませんので、ここでお答えいたします。起債残高が420億円という話でしたが、これは、市の一般会計だけではなく、特別会計、土地開発公社等の起債の合計が420億円ということです。

【笹井】時間の関係もございますので、まとめてご質問いただき、まとめて答弁させていただきたいと思います。

【質問者I】社会教育、自由大学等の受け皿として、知的創造活動の場というのは理解できますが、市民プラザは、知的創造の場として、意思ある人であれば、場を設定すれば意味はありますが、市民プラザといいますと、人をコーディネートしていくのは人です。このイメージが薄いように思います。市民プラザも、場所貸しで集まれば知的創造の場として広がりが生まれるとお考えなのか、お聞きしたいと思います。

【質問者J】59ページの建設スケジュールでは、10月に基本設計が完成することになっていますが、完成した時、公表されるのでしょうか。されるとすれば、どういう形でされるのでしょうか。

【質問者K】今回の立地条件の中で、緑が多くほっとする場所ができる、まして、低層の場所ということで、他の市にないものが出来れば良いと思っています。しかし、少子高齢化の中で空き部屋、教室など多々あると思います。この活用も検討していただきたい。また、スイングホールのランニングコストと、スイングホールの利用稼働率はどうなのか。将来的に、市債というのが税金の負担増となると、子どもが減るなかでどうやって負担していくのか、役所も市民が本当に考えていることを一緒に考えて欲しいと思います。

また、もう少し武蔵野はほっとするところがあって良いのではないかと考えています。知的創造拠点と名前はなっていますが、そのへんは難しいと感じます。最後に説明会ですが、ここで終わって、あとは行わないのでしょうか。今後、どのように進行していくのか、お聞かせいただきたい。

【笹井】まとめて、企画政策室長の方からお答えいたします。

【檜山】まず、最初の方の質問ですが、人と人をつないでいき、コーディネートするのは、人だという指摘はそのとおりです。市民の知的活動を支援する場合には、職員が上から指導するというのではなく、側面からのサポートをしていくべきではないでしょうか。コーディネーターとして市民の方が、そうした役割を果たしていただくとありがたいと思います。ただ、様々活動があり、また今後生まれてくると思いますので、そういったことをサポートできる場をしっかりと用意しなければならないと思っております。基本設計が完成したら

公表するののかという質問ですが、当然公表いたします。市議会の特別委員会でも当然報告しますし、市報にも掲載し、ホームページにも載せていき、広く皆さんに周知をしたいと思っております。

あの場所にほっとするような物が欲しいというご意見でしたが、先ほども申しましたとおり、北側の公園、駅前広場の緑、並木などを見ていただいて、南口に降り立ったら、ほっとするというような空間ができると思いますし、是非そうしたいと思います。

スイングホール、あるいは学校の余裕教室を活用して、この施設の規模を削減したらどうかというご意見ですが、先ほど申しましたとおり、市民活動もそうですし、図書を使っていろいろ研究をされる方などいろいろ使われ方はあると思います。利用される方達に、施設から離れて、スイングホールを使って欲しい、というのは活動として難しいと思います。やはり、一体的な施設として有効活用をしていきたいということで、ギリギリのところまでこういった規模になりましたし、また現在は、知的創造拠点としてこういう形で考えていますが、将来的にいろいろな使われ方がでてくると思います。将来のニーズを考えますと、一定の余裕は必要になってきます。

また、スイングの利用率ですが、現在手元に資料がございませんが、ご質問の趣旨として、スイング等を活用すれば規模が削減できるのではないかと、ということだと理解いたしましたので、こういった視点からお答えしました。

説明会につきましては、建設基本計画については、本日の説明会で終了させていただきます。今後、市議会の特別委員会にもそのつどそのつど説明をしていくとともに、その時点で必要な情報は、市報等で広報し、また意見を募集したいと思っております。当然、皆様からのご意見も、文章なり口頭でも担当におっしゃっていただければ、参考にしながら事業を進めていきたいと思っております。

【笹井】ご希望ですので、とくに追加の質問を認めます。簡潔にお願いします。

【質問者L】常にこの計画は、始めに計画ありき、始めに建物ありき、規模ありき、お金ありきでした。それでも、知的創造拠点とか、知的市民活動とかそういうような言葉によって膨らましてきたような気がします。市役所の方たちも分かっているが、仕事だから仕方ないと思っているのではないのでしょうか。特に川原田さんは気の毒です。最初に2階建ての低層で、これなら私たちも許せる範囲だと思われる案を、市役所側によって、現在の案に押し切られたと想像しています。本当にこういう物をつくってよろしいのでしょうか。将来の子孫に対して良いのか。緑を削って良いのか。これも欲しい、あれも欲しいという発想でなく、これはいらない、削れるという発想に転換していただきたい。

【質問者M】今の皆様の発言を聞いていると、大人の目線でしか考えていないと思っております。現実として、中・高生の居場所というのが、現在どこの市でも問

題となっています。それに対して、吉祥寺シアターができましたが、境のこの地に是非つくって欲しいという、子ども達の願いがあります。保護者の願いがあります。今現在、ヨーカ堂の前で夜な夜なダンスをしている子ども達がたくさんいます。その子達が本当に活動できる場、そういう居場所をつくって欲しいと私達は常に願っていました。以前にも、こういう建物を建てると聞いた時、そういう意見を出しました。そういう意見もあるということを考えていただきたいと思います。

【檜山】お二人の方から、ご意見をいただきましたが、建設促進というご意見と、ボリュームを減らせという、それぞれのお立場からのご発言でした。当然川原田さんも専門家として、誇りを持って計画を進められています。我々も、当然、市民の皆さん、あるいは子ども達に有効に使っていただける施設をつくりたいと思って全力をあげて取り組んでおります。その点は申し上げておきたいと思います。トータルでいろいろなご意見をいただきましたが、今日は、川原田さんもいらっしゃいますので、取り入れられる意見については、当然今後の設計にも活かしていきたいと思います。改めて、それぞれの利用者の方々につきましては、いろいろな場でご意見を伺うような、ヒアリングを行う場を考えていきたいと思います。

【笹井】本日は、13名の方から、ご意見、ご質問、ご要望をいただきました。誠に申し訳ありませんが、質疑は終了させていただきます。ご意見やご不明な点につきましては、企画調整課新公共施設開設準備担当までお問い合わせいただければ、と思います。最後に武蔵野市助役永並より閉会のご挨拶を申し上げます。

【永並助役】これで市民説明会を終わりとさせていただきます。今日は、夕方のなにかとお忙しい時間においでいただきましてありがとうございます。これからも、前向きなご意見を多数いただきたいと思います。以上で閉会といたします。